

# DATA BOX

## 東松島市基本データ



photo: B/20に東松島市を訪れた女性関係者。地域復興推進員の現職者として、前日の一泊二日間の滞在を予定しながら、地域住民と交流しました。

### 人口変化

(毎年3月1日現在、出典：市報「ひがまつしま」)



### 年齢別人口構成

■ 0-14歳 ■ 15-64歳 ■ 65歳以上  
(出典：総務省統計局、地域別統計データベース)



### 就業人口構成

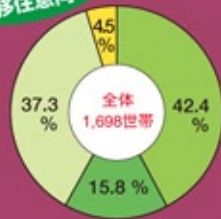
■ 第1次産業 ■ 第2次産業 ■ 第3次産業 ■ その他  
(出典：総務省統計局、地域別統計、2005年)



### 今後の移住意向

■ 市内の別の場所 ■ 市外 ■ 震災前と同じ場所・地域 ■ 無回答

東松島市は、震災時に津波浸水地域に居住していた世帯に対し、今後の居住意向についてアンケートを行いました。その結果、58.2% (1,698世帯中988世帯) が今回の震災に伴い移転を希望しています。



ジャイカプラザニュースとくほく 2011年10月号

JICA東北

検索

## JICAプラザ

国際協力のための情報スペース



お気軽に  
どうぞ!

10月の  
展示

### 日本も元気にする青年海外協力隊

OPEN

10月1日から11月7日までJICAボランティアの秋の募集が行われます。JICAボランティアには、20歳から39歳の方を対象とした青年海外協力隊と、40歳から69歳の方を対象としたシニア海外ボランティアという2つの制度があります。どちらも自分の持っている技術や知識を開発途上国の国づくり、人づくりのために役立てていただくことができます。1965年から始まった青年海外協力隊は、発足以来40数年間で約80カ国(アジア、アフリカ、中近東、中南米、大洋州、東欧)に対し、延べ3万人以上の隊員を派遣しており、1990年にスタートしたシニア海外ボランティアでは、約4,000人の方々が60カ国以上に派遣されています。

今回JICAプラザではボランティアの募集時期に合わせて、帰国後に東北で活躍されている隊員OB、OGのパネル展を行います。協力隊員として活動中の模様と体験談、そして日本に帰国した後の活躍の様子などをご紹介しますので、JICAボランティアに興味をお持ちの方はぜひご覧ください。応募相談なども随時受け付けておりますので、どうぞお気軽にお立ち寄りください。



ポスター 青年海外協力隊秋募集

平成23年度秋募集 応募受付中  
10/1(土) ~ 11/7(月)

DVD 上映

日本も元気にする青年海外協力隊  
「JICAボランティア 帰国後の活動紹介」

## JICA東北

JICAプラザ併設

開館時間 9:30~17:30  
月曜~金曜

宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1  
仙台第一生命タワービル15F  
(地下鉄勾当台公園下車徒歩1分)

TEL 022-223-5151

✉ jicathic-pr@jica.go.jp

WEB SITE

ウェブサイト <http://www.jica.go.jp/tohoku/>



### 東北6県 JICAデスク

イベント情報の詳細などお気軽にご連絡下さい。

- 青森デスク 青森市水産ビル5F TEL 017-735-2249
- 岩手デスク いわて県民情報交流センター(アイーナ)5F TEL 019-654-8911
- 秋田デスク 秋田総合生活文化会館(アトリオン)1F TEL 018-893-5499
- 山形デスク 山形市霞城セントラル2F TEL 023-646-6267
- 宮城デスク 宮城県仙台合同庁舎7F TEL 022-275-5540
- 福島デスク 福島県庁舟場町分館2F TEL 024-524-1315



JICA東北はISO14001環境マネジメントシステム認証取得です。この認証は適切な管理された森林から採れたFSC認証紙と環境にやさしい植物油由来のインクを使用しています。

2011年10月



独立行政法人 国際協力機構



### 今月の特集 Topic in Focus

## 宮城県東松島市で 震災復興支援を開始

### 地域復興推進員として 国際協力推進員3名を配置

表紙写真: 東松島市役所で、阿部市長(右)から被災状況や応急対応について説明を受けるJICA東北理事長(左)

JICA東北 広報誌 プラザニュース

JICA Plaza NEWS tohoku 2011.10

各地で「体験談&説明会」開催! (予約不要 入場無料 入退場自由)

●青年海外協力隊/日系社会青年ボランティア

青森市	10/15 (土)	14:00～16:00	青森県水産ビル6F 研修室
盛岡市	10/23 (日)	14:00～16:00	アイーナ5F 会議室501
仙台市	10/ 2 (日)	14:00～16:00	仙台第一生命タワービル11F C会議室
//	10/16 (日)	14:00～16:00	//
秋田市	10/22 (土)	14:00～16:00	アルヴェ 1F 音楽交流室D
山形市	10/29 (土)	14:00～16:00	霞城セントラル2F 研修室

●シニア海外ボランティア/日系社会シニア・ボランティア

青森市	10/15 (土)	10:30～12:30	青森県水産ビル6F 研修室
盛岡市	10/23 (日)	10:30～12:30	アイーナ5F 会議室501
仙台市	10/ 2 (日)	10:30～12:30	仙台第一生命タワービル11F C会議室
//	10/16 (日)	10:30～12:30	//
秋田市	10/22 (土)	10:30～12:30	アルヴェ 1F 音楽交流室D
山形市	10/29 (土)	10:30～12:30	霞城セントラル2F 研修室



# 宮城県東松島市で 震災復興支援を開始

●Text: 永見光三 JICA東北 震災復興担当

地域復興推進員として国際協力推進員3名を配置

懇談会のグループ討議では  
活発な意見が交わられました。

NEW FACE!

私たち「地域復興推進員」が  
東松島市のまちづくりを支援します!

 <p><b>四倉 禎一郎</b> 石巻出身/ 元自衛隊</p>	 <p><b>福原 佳代子</b> ケニア/ 村落開発普及員</p>	 <p><b>佐々木 潤</b> ガーナ/ 村落開発普及員</p>
--	---	--

JICAの理念と行動力+地元の人間としての意地と根性で、震災前より素晴らしいまちを、震災の一助となれるような活動をしていきたいと思ひます。

若任してすぐに地元の方々に温かく迎えていただきながら活動を開始しました。難しい活動だと思ひますが、全力投球で頑張りたいと思ひます。

住民や行政の方々の考えを理解できるよう努め、その事実を表山の場面で伝えていきながら、皆さんが求める復興に全力で取り組んでいきます。

## Event

イベント 情報

**宮城** 青年海外協力隊 平成23年度秋募集説明会 in JICA東北 10/26

会場 JICA東北 会議室 (仙台第一生命タワービル15F) 18:20～20:00

秋募集期間中の土日開催の募集説明会に参加できない方のために、平日夜に開催。協力隊OGの活動体験談や個別応募相談を行います。予約不要、入場無料、入退場自由、服装自由。 [問合せ](#) JICA東北 ボランティア担当: 前田

**山形** AIRY×JICA写真展 海外で活躍する JICAボランティア 10/21～11/1

会場 山形県国際交流協会内 (霞城セントラル2F) および協会地下の壁 9:30～18:00

JICAボランティアの活動写真や任国の風景や人、文化の写真を通して、JICAボランティアの活動を紹介します。文字や話からは知り得ない情報を写真から発信します。

※AIRY (東)山形県国際交流協会 [問合せ](#) 山形アスク 担当: 西川

**東北** 開発教育指導者研修 平成23年度JICA東北 国際海外研修国内研修 10/29～30

会場 仙台第一生命タワービル11F C会議室 未定

インドネシア派遣教師海外研修国内研修を開発教育指導者研修として一部一般公開。教師海外研修に興味ある教育関係者、開発教育・国際協力全般に興味ある方も参加可。無料。要申込。 [問合せ](#) JICA東北 市民参加協力調整員: 高橋博子

詳しくは、各デスクの担当者にお問い合わせ下さい。  
イベント情報はWebサイトにも掲載しております。ぜひご覧下さい。

JICAは、東松島市、県、宮城大学、地元NPOと連携して、行政と住民がパートナーとして協働する住民参加型の「復興まちづくり支援プロジェクト」を東松島市で開始しました。震災以前から問題となっていた高齢化や人口減少などへの対応も含め、住民主体での震災復興と地域運営を支援します。今後、コミュニティの絆を再生し、集団移転や住宅再建、生業再建といった復興課題に住民が主体となって取り組める環境づくりを行います。

東松島市には、8月19日より地域復興推進員3名を配置しています。青年海外協力隊経験者の福原佳代子さん(ケニア村落開発普及員 OG)と佐々木潤さん(ガーナ村落開発普及員 OB)の東北在住経験のない2人に加え、地元石巻での地域活動経験や人脈をもった四倉禎一郎さんを合わせた厚みのある陣容です。宮城大学地域連

携センターから派遣された復興まちづくり推進員とともに、復興まちづくり計画の地区懇談会などをサポートしています。

協力期間は3年以上としており、被災地コミュニティに寄り添いながら「細くても永い復興支援」を心がけ、地域コミュニティ再建だけでなく、地域社会の将来も見据えたよりよい住民自治の実現を支援します。また、ここでの積み重ねを海外での国際協力に生かしていくため、経験や教訓を蓄積するだけでなく、東北地方における震災復興に携わる人材やリソースのネットワークを強化していきます。

世界中の災害や紛争被災地の復興にも活かせるモデル形成も目指した、これまでJICAになかった新しい試み(国内支援)です。

## どうぼく @WORLD インドネシアの経験を日本へ



ムサイリン氏は、津波で両親や兄弟を失ったという経験をしながらも、親しみやすい人柄と優れた多文化能力でJICAチームに多大な協力をしてくださった方です。

2004年、インドネシアは大地震と津波を経験しました。その時、日本政府や日本の皆さんのサポートを得て、アチェの人々は孤独ではないと知り、私たちの町や隣接の町、私たちのコミュニティは以前よりもより良いものに復興できました。

私は、2010年の9月から11月まで仙台の東北大学で学んでいました。日本政府がどの様に災害を軽減するのかを学びたくて、そして私の故郷のバンドアチェで応用できるように研究していました。

ムザイリン アファン さん

そして、2011年3月11日、バンドアチェと同様に大地震と津波が日本で発生しました。

私たちは同様に災害を受けやすい地域に住んでいます。私たちはお互いに学び合う必要があります。どの様に私たちの町やコミュニティを立て直したのか、アチェの経験をぜひ日本の皆さんと共有したいのです。あの時、日本の皆さんが支えてくれたお陰でアチェが復興できたように、日本の復興に向けて、私たちは皆で協力して取り組みましょう。

ジャクアラ大学講師  
アチェ州開発企画局 技術アドバイザー